

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		社会教育委員活動事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進			目	01 社会教育総務費
	施策(小)	01 住民参画による生涯学習活動の充実			大事業	02 社会教育推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	社会教育法第15条美幌町附属機関に関する条例				経費区分	政策的経費
事業概要	社会教育委員の会議開催及び委員活動を通じて、教育委員会に対して社会教育に関する助言並びに社会教育中期計画の作成及び事業の評価を行う。					
事業目的	美幌町の社会教育事業をより充実させる					
事業の対象	美幌町社会教育委員					
実施結果	【実施結果】 社会教育委員の会議開催及び研修会・セミナー等の参加					
現状と課題	【現状と課題】 13名の社会教育委員が積極的に会議・研修へ出席して、さらに社会教育事業も数多くの事業現場を視察して、適正な社会教育の中期計画への事業評価をしている					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	810	649	872	826	901	900
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	810	649	872	826	901	900
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	810	649	872	826	901	900

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	社会教育委員の会議、研修会への参加状況	目標	人			90	90	100
		実績	人	74	80	136		
		達成率	%		88.89	151.11		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	社会教育法による制度により設置した委員会であり妥当					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	社会教育に関する諸計画を立案し、必要な研究調査を行っており委員会活動は非常に有効性が高い					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	委員会活動が活発であり、有益な意見提言をもらえており委員会は非常に効率が高い					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 委員任期が2年間あり、次年度も同委員メンバーで効果的な委員活動ができる。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 活動が活発であるが、社会教育委員の報酬が主たる予算であるため現状維持		予算反映額 (概算)	0千円		現状維持	
今後の改善点	各委員にとって有意義と感じられる委員会会議内容や研修テーマ等に工夫を重ねていく							

平成29年度 事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		社会教育管理事務		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	01 生涯学習の推進体制の確立			目	01 社会教育総務費
	施策(小)	01 生涯学習事業の連携、協力			大目録	01 社会教育事務
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	社会教育事務を円滑かつ効果的に行うため、事務環境や社会教育主事研修による職員研鑽をする。また高齢者が充実した生活や自らの学習活動を続ける「明和大学」の運営にあたる嘱託職員を雇用。					
事業目的	社会教育主事の能力向上、明和大学の安定的運営に生涯学習の嘱託職員を雇用して学習環境整備に努める					
事業の対象	社会教育主事の職員研修や生涯学習嘱託職員					
実施結果	【実施結果】 社会教育担当(明和大学含)嘱託職員を任用し、また公用車の維持管理、社教主事研修への派遣					
現状と課題	【現状と課題】 明和大学の講義、クラブ活動も順調に進んだ。社教主事研修も継続的に参加した。課題は明和大学生徒の人数維持。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位:千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	4,616	4,717	4,839	4,737	4,819	4,800
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	4,616	4,717	4,839	4,737	4,819	4,800
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	4,616	4,717	4,839	4,737	4,819	4,800

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	職員の研修参加状況	目標	人		25	40	40	40
		実績	人	32	38	36		
		達成率	%		152	90		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者向けの「明和大学」には嘱託職員を配置して、又社会教育主事の研修実施も行い資質向上を図っており妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	明和大学生徒確保も一定水準が維持され、また授業参加も高く特に高齢者向け生涯学習には、有効性がある。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	「明和大学」等特に高齢者向け生涯学習に嘱託職員を配置したり社会教育主事への研修も行いつつ資質向上を図り効率が良い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 生涯学習推進(明和)に嘱託職員を雇用して特に高齢者向け授業を強化する。また、社会教育担当職員の各種研修を重ねて職員能力の向上を図る。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 安定した授業継続のため、予算は維持していく。			予算反映額 (概算)	0千円	現状維持	
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		高齢者教育推進事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	01 住民参画による生涯学習活動の充実			大事業	04 高齢者教育事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	美幌町高齢者教室「明和大学」の運営活動を行う。 開設年：昭和47年度 学習日：月2回（第1・第3水曜日） 対象：65歳以上の町民 学生数：75名（平成29年4月現在） クラブ活動：必修6クラブ、特別7クラブ（合計13クラブ）					
事業目的	高齢者教室「明和大学」を運営し、町民（高齢者）の余暇活動の充実や生きがいづくり又地域貢献につながることを目的としている。また、明和大学以外の高齢者向け講座を提供して、どんな高齢者にも学習機会を提供に努める。					
事業の対象	明和大学生徒及び一般の高齢者					
実施結果	【実施結果】 明和大学の各授業の開催、クラブ活動への支援を行い、さらに一般高齢の方々にもアクティブシニアセミナーを開催					
現状と課題	【現状と課題】 明和大学入学者数の減少傾向、魅力ある内容をPRしていく					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	1,112	1,067	1,210	1,200
国支出金	-	-	0	0	0	0
道支出金	-	-	0	0	0	0
地方債	-	-	0	0	0	0
その他	-	-	0	0	0	0
一般財源	0	0	1,112	1,067	1,210	1,200
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	1,112	1,067	1,210	1,200

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	明和大学在籍人数	目標	人			90	80	80
		実績	人		77	75		
		達成率	%			83.33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者向けの生涯教育として推進している「明和大学」組織は今後も必要であり妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	授業形式により多くの参加受講者による学習が行うことができ、有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	明和大学として組織活動が可能であり、多くの高齢者に学習機会を提供できており効率性が高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 明和大学の運営、アクティブシニアセミナーの開催。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 明和大学学習講師への報償が主なため、予算増減はしない。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		マナビティーセンター管理運営事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	02 生涯学習関連施設の整備			目	03 社会教育施設費
	施策(小)	01 マナビティーセンター設備の整備			大事業	02 マナビティーセンター管
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	生涯学習施設であるマナビティーセンターの施設の適正な管理運営を行う					
事業目的	施設管理を適正に行いながら、サークル利用者の満足や利便性を維持していく					
事業の対象	マナビティーセンター利用者及び一般町民					
実施結果・現状と課題	<p>【実施結果】 施設管理職員を配置し環境整備や適切な修繕作業を行い、清掃業務・夜間窓口受付業務の業務委託で施設と利用者へのサービス提供を維持することができた</p> <p>【現状と課題】 敷地や建物・備品などにも、細かく早期に点検・メンテナンスがされて、施設全体の長寿命化をが図っており、これを維持継続していく</p>					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	17,324	17,015	177,406	17,105	15,285	15,300
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	930	1,368	1,194	1,194	1,044	1,000
一般財源	16,394	15,647	176,212	15,911	14,241	14,300
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	17,324	17,015	177,406	17,105	15,285	15,300

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	施設利用者数	目標	人		29,000	28,000	27,000	25,000
		実績	人	30,126	30,997	30,824		
		達成率	%		106.89	110.09		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	施設維持管理を適正に行い長寿命化を図り、また利用者への利便性維持向上のために必要なため、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	利用者からも施設利用において高く評価をいただいております。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	計画的な維持管理を実施しており、経費も工夫を重ねて留めており効率よく運営している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 マナビセンター施設の長寿命化と利用の主となるサークル関係団体の利便性を維持できる環境整備に努める。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 施設の日常補修や点検により、経費をかけずに施設維持し、既存予算範囲内で想定していく。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	施設メンテナンスに心がけて、施設環境の快適性と安全性に努める							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		成人教育推進事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	01 住民参画による生涯学習活動の充実			大事業	03 成人教育事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	時代に応じた学習機会を提供し、個人の学習意欲に応じていく。「おもしろ科学の祭典」指導者養成により地域活動への参画も促す。町民の企画提案型「みんなのまなび場」講座やマナビティーセンター講座をはじめ、女性リーダー国内研修派遣も継続して、幅広い成人向け生涯学習事業を展開し実施する。					
事業目的	多くの町民に興味を持ってもらい、誰もが参加しやすい学習提供を工夫していく。地域の女性リーダー育成を図るため研修も実施する。					
事業の対象	一般町民					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 「みんなのまなび場応援事業」やマナセン講座・女性学級・女性リーダー国内研修派遣の実施。また、おもしろ科学の祭典指導者養成や各種教室など当初計画の事業は実施した。 【現状と課題】 引き続き多くの受講者が参加してもらえる魅力ある講座実施に努める。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	589	846	799	743	1,100	850
国支出金	-	0	0	0	0	0
道支出金	-	30	261	0	0	0
地方債	-	0	0	0	0	0
その他	-	0	0	0	0	0
一般財源	589	816	538	743	1,100	850
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	589	846	799	743	1,100	850

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	成人教育事業参加者数	目標	人		700	500	500	500
		実績	人	550	533	367		
		達成率	%		76.14	73.4		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町民自らが学びたい自主的な学びに支援推進する必要はあり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	多様化する生涯学習の手法として、今後の発展につながっており高い有効性がある。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	予算経費も最小限で最大の効果ができるように意識して経費削減に貢献している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 イマドキ講座、みんなの学び場応援事業、女性講座(セミナー)、国内女性派遣研修、おもしろ科学の祭典指導者養成講座等を実施。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 既存予算の中で講座内容の工夫を重ね企画実施をしていく。			予算反映額(概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	町民自ら企画する自主的の強い学習支援をさらに進めていく							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		社会教育団体育成事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	01 住民参画による生涯学習活動の充実			大事業	01 社会教育団体育成事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	町民の生涯学習活動を奨励していく環境づくりを総合的に進めるため、社会教育関係団体の育成を図るため負担金・補助金により支援する					
事業目的	社会教育関係団体の活動推進					
事業の対象	北見地区広域社会教育推進協議会、美幌町文化連盟、美幌町PTA連合会					
実施結果	【実施結果】 負担金、補助金の交付					
現状と課題	【現状と課題】 各団体の諸活動が適正であるため問題ない					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	403	403	403	403	403	650
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	403	403	403	403	403	650
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	403	403	403	403	403	650

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	負担金交付している団体数	目標	団体		3	3	3	3
		実績	団体	3	3	3		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	諸団体の活動推進には町の支援が継続的に必要であり、事業推進には妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	活動への支援取組は組織・団体の成長や発展に繋がるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	諸団体活動に必要な資金は負担金等が必須であり、今後も継続した活動には高い効率性がある。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 負担金交付により、各団体の適正運営に支援と事業協力を継続する。					評価結果	
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 文化連盟団体が平成31年度に創立50周年記念事業を予定、この年に限り補助金増額の予定。			予算反映額 (概算)	247千円		拡充
今後の改善点	各団体の事業状況・運営等把握に努めて、活動継続を支援していく							

平成29年度 事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		少年教育推進事業	グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当		
			評価者名	教育部長 田村 圭一		
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	03 青少年の健全育成		項	04	社会教育費
	施策(中)	02 青少年育成活動の充実		目	02	社会教育振興費
	施策(小)	01 生きる力を育む体験活動の充実		大事業	02	青少年教育事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	マニフェスト	-			
根拠法令等				経費区分	政策的経費	
事業概要	次世代を担う子どもを育成するため、野外活動や社会体験、生活体験をとおして様々な知識・技術を身につけ「生きる力」を養う事業を行う。また少年を対象にボランティア養成事業を行いながら社会の一員としての意識を高める。					
事業目的	小学生…「生きる力」を身に付ける。 中学生…ボランティアを通して社会参加への意識を高める。 高校生…次代のリーダーとしての知識・経験を獲得する。					
事業の対象	小学生～高校生					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 小学生 … 各種体験活動事業の実施 中学生 … ボランティアに関する講座の実施、研修派遣 【現状と課題】 参加生徒の固定化傾向があるため、新規参加者を増やす工夫を継続する					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	574	701	940	885	918	900
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	62	40	79	79	50	50
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	512	661	861	806	868	850
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	574	701	940	885	918	900

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	少年教育事業参加者数	目標	人		950	950	600	600
		実績	人	929	627	559		
		達成率	%		66	58.84		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	児童生徒向け事業の参加者は多く、より推進していく必要はあり妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	各事業への参加者も増加傾向にあり子供の社会教育に対する成長や発展のため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	社会活動奨励員と職員が連携して企画実施を重ねており、運営の効率性が高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 おもしろキッズ共和国、リーダー養成講習、研修派遣(福島・常呂)、ワクワク通学合宿、おもしろ科学の祭典その他含めて多くの事業から精査して実施していくことが必要。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 類似事業を整理して質の高い事業として継続する。			予算反映額(概算)	0千円		改善
今後の改善点	事業が多岐に膨らみ過ぎのため、精査検討が必要							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		家庭教育推進事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	03 青少年の健全育成			項	04 社会教育費
	施策(中)	02 青少年育成活動の充実			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	03 ライフステージに対応した家庭教育学級の充実			大事業	03 成人教育事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	家庭教育力向上の一助とするため、子どもを持つ親の学習機会を拡充し、親の育児に対する不安を軽減し、心身共に健やかな子どもの育成を図る。 幼稚園家庭教育学級(2幼稚園)、家庭教育セミナー、フレッシュママセミナー、PTA役員研修会					
事業目的	家庭における子育て不安の解消し、親が抱える課題について学習機会を活かして家庭教育力を向上					
事業の対象	幼児や児童・生徒の保護者向け					
実施結果	【実施結果】 幼稚園家庭教育学級(2幼稚園)、家庭教育セミナー、子育てセミナー(フレッシュママセミナー)、PTA役員研修会					
現状と課題	【現状と課題】 育児や子育てに忙しい保護者達に、楽しく講座を受講してもらい、また親同士の交流や仲間づくりの機会としても機能している					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位:千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	486	350	423	355	434	435
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	382	194	261	0	161	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	104	156	162	355	273	435
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	486	350	423	355	434	435

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	家庭教育事業参加者数	目標	人		1,100	1,000	1,000	1,000
		実績	人	1,182	742	1,218		
		達成率	%		67.45	121.8		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子育て世代への保護者が受講と交流を推進できており、今後も推進させる必要があり妥当。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	フレッシュママセミナーの受講者は毎回定員になるなど、学習提供と受講者の希望が合致して有効性がある。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	同じ子育て世代の対象者に学習提供をするため参加者も多く、期待する学習の趣旨目的の達成も高いため効率性はある。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 フレッシュママセミナー(春・冬)、幼稚園家庭教育学級(学習会、スポーツ交流、合同学習講座)はテーマを変えて保護者に有益な学習情報を提供していく。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 講師報酬が主たる予算であるため、現状予算の中で工夫可能。			予算反映額(概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	子育て世代に満足できる事業や講師選考にも精査を高める							



平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		高齢者学級運営事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	02 自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ			款	03 地域支援事業費
	施策(大)	02 高齢者福祉の充実			項	03 介護予防事業費
	施策(中)	06 高齢者の社会参加、生きがい活動の促進			目	01 介護予防事業費
	施策(小)	04 高齢者の学習と活動機会の充実			大事業	01 介護予防事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	高齢社会を迎え、高齢者が充実した生活を送るために自ら進んで学習活動や社会的活動を続け、主体的に生きていくことが求められていることから、高齢者の生きがいづくりや社会参加を促すための学習機会として「明和大学」を開講する。					
事業目的	生きがいのある生活を送り、新たな人と人との出会いによる交流の促進及び積極的な社会参加を目指す。					
事業の対象	65歳以上の町民					
実施結果	【実施結果】 「明和大学」を開講して高齢者の学習機会を提供する					
現状と課題	【現状と課題】 入学者数の減少傾向					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	877	1,083	1,112	1,067	0	1,200
国支出金	0	303	0	0	0	0
道支出金	0	152	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	491	0	0	0	0
一般財源	877	137	1,112	1,067	0	1,200
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	877	1,083	1,112	1,067	0	1,200

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	新入学者数	目標	人			17	19	15
		実績	人	15	17	12		
		達成率	%		100	63.16		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	65歳以上の方を対象に学校形式による明和大学は高齢者向けの生涯学習とし、て核となるもので妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	人口減少のなかで12, 3名の入学者確保して明和大学の推進を進めるためにも有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	計画的に講座やクラブ活動の推進を行い適正な経費で工夫をしており削減できる余地はない。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 明和大学の学習や活動内容を広く知ってもらうPRを図る。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 既存予算の範囲内。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	魅力ある明和大学の授業やクラブ活動に努めながら目標とする入学者を確保していく							

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		自治会連合会女性部会青少年部会補助事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	02 総務費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	01 総務管理費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進			目	08 住民活動推進費
	施策(小)	02 住民主体による生涯学習活動の奨励			大業	05 自治会連合会女性部会青
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	教育員会社会教育グループ社会教育担当が支援・育成をしている2団体に補助金を交付して活動活性化を図る。 (1) 美幌町自治会連合会女性部会 (2) 美幌町自治会連合会青少年部会					
事業目的	関係団体の活動が促進されることで、広く町民が事業を享受できる					
事業の対象	町民(自治会連合会女性部会、自治会連合会青少年部会)					
実施結果	【実施結果】 自治会女性部・青少年部会へ補助金交付					
現状と課題	【現状と課題】 自治会女性部の活動実績は活発だが、青少年部活動は時代に即した取り組みが急がれる					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位:千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	855	755	855	855	855	855
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	855	755	855	855	855	855
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	855	755	855	855	855	855

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	補助金を交付している団体数	目標	団体		2	2	2	2
		実績	団体	2	2	2		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	諸団体の活動推進には町の支援が継続的に必要であり、事業推進には妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	活動への支援取組は組織・団体の成長や発展に繋がるため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	諸団体活動に必要な資金は負担金等が必須であり、今後も継続した活動には高い効率性がある。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 自治会女性部会は「全町女性の集い」「広報紙友輪」の発行「母が贈る子ども劇場」や他部会活動との活動協力。青少年部会は「こどもまつり」「雪ん子ひろば」で健全育成に努める。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 両団体とも現状の補助金額で事業運営は可能。			予算反映額 (概算)	0千円	現状維持	
今後の改善点	当該団体の活動内容を多くの町民に知ってもらい、事業参加者を増やす努力を行う							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		社会教育活動奨励員設置事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進			目	01 社会教育総務費
	施策(小)	01 住民参画による生涯学習活動の充実			大事業	02 社会教育推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等	美幌町社会教育活動奨励員設置要綱				経費区分	政策的経費
事業概要	社会教育活動奨励員の活動は、青少年体験事業や子育てに関する講座等の企画や運営を直接行う					
事業目的	子ども向け社会教育事業を、大きな分野と目的別に、それぞれ社教活動奨励員が分担して取り組む					
事業の対象	美幌町社会教育活動奨励員					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 社会教育活動奨励員は、多岐にわたる社会教育事業の企画や運営に直接係わりを持ち、活発な会議や部会活動を行った 【現状と課題】 新たな活動奨励員の確保に努める					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	305	286	308	307	308	308
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	133	126	200	200	126	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	172	160	108	107	182	308
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	305	286	308	307	308	308

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	奨励員会議、事業への参加状況	目標	人			360	360	400
		実績	人		357	299	478	
		達成率	%			83.06	132.78	
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	社会教育現場に町民による社教活動奨励員の組織活動は今後も推進が必要不可欠であり妥当である				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	これまでの実績経験や会議による意見企画提案を重ねて事業が実施されており、高い有効性がみられる				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	社教活動奨励員がボランティア活動に近く、事業実施に係る経費は削減する余地はない				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 生徒・学生向けの少年事業全般において、職員と一緒に企画会議や直接の事業運営に従事した。社会教育事業を推進する大きな役割を担い、重要な組織である。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 社会教育活動奨励員の活動はボランティア活動に近い ため、現状の報酬額で維持していく。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点								

平成29年度 事務事業評価調査書

1. 事業内容

事務事業名		青年教育推進事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	03 生涯学習活動の促進			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	01 住民参画による生涯学習活動の充実			大事業	02 青少年教育事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	「成人の集い」を企画し開催する。また「B-Live活動」で青年の発想による活動を支援・自主性を高めて事業実施することで、まちづくりに参画する青年らの活動活性化を図る					
事業目的	青年たちの考えや発想による自発的な行動を行ってもらう。青年らの自主性により、広くまちづくり活動への実践につなげてもらう。					
事業の対象	成人の集いを企画する「はたちのつどい実行委員」					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 新成人を対象とした「成人の集い」実施 青年活動団体「B-Live」活動への支援並びに共同事業の実施 【現状と課題】 若い発想でまちづくりに生かせる人材を増やしたい					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	110	91	92	87	203	200
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	110	91	92	87	203	200
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	110	91	92	87	203	200

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	青年教育事業(成人式、はたちのつどい会議、青年講座)参加者数	目標	人		450	450	300	300
		実績	人	462	358	211		
		達成率	%		79.56	46.89		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	自分たちの記念となる成人式を自ら企画し実施するため必要なものであり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	対象は新成人の方の集いとして高く参加されており、有効性はある。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	参加者は一番親しみのある同級生たちで創り上げる集いを毎回楽しみに来場しており、効率性が高く寄与している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 はたちのつどい会議を開催して、1月の「成人の集い」を成功させる。また「青年講座」の開催では多くの青年たちが興味を持てるテーマを提供できるように工夫する。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 内容継続しますが、青年講座の講師招へいに係る報償は道内講師で見積るために、例年同額程度は必要			予算反映額(概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	少子化が益々進み、成人式参加者が減少することへの内容工夫は必要							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		青少年対策事業		グループ・担当名	社会教育グループ社会教育担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	03 青少年の健全育成			項	04 社会教育費
	施策(中)	01 青少年の健全育成推進体制の充実			目	04 青少年対策費
	施策(小)	01 青少年健全育成団体等との連携			大業	01 青少年対策事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	次世代を担う青少年の健全育成を進めるため、関係団体と連携を図りながら町民意識を高めて町民総ぐるみ活動を行う。また青少年犯罪の抑止や犯罪に巻き込まれないよう、保護者や学校・地域・関係団体と一体となって安全活動を推進する。					
事業目的	青少年の健全育成や町民意識を高めて、青少年の非行防止と犯罪等から青少年を守るための安全活動を行う。					
事業の対象	青少年及び一般町民					
実施結果	【実施結果】 子ども見守り隊による定例巡視や声かけ運動を実施し、青少年の健全育成の諸活動や協力関係の強化を図った					
現状と課題	【現状と課題】 啓発運動を固定化されたMPA-から、新規の参加者を増やす					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	5,052	5,211	5,448	5,336	5,474	5,400
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	20	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	5,052	5,211	5,428	5,336	5,474	5,400
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	5,052	5,211	5,448	5,336	5,474	5,400

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	巡視活動参加者数	目標	人		750	800	850	870
		実績	人	712	839	860		
		達成率	%		111.87	107.5		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	青少年育成センターを核に、民間の育成協議会や他ボランティアと連携して推進しており活動が妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	青少年育成や非行防止も含めて意識づけも継続されて活動が取り組まれて、高い有効性がある。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	活動については、組織・仕組みが完成されており効率よく事業は推進している。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 定例巡視・合同巡視をはじめ「声かけ一斉活動」の町民参加を増やす工夫を行う。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 啓発活動が主のため、現行予算で事業を進めていく。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	見守り動員を増やす工夫と仕組み作りのため、関係者との協力が不可欠							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		町民会館等維持管理事業		グループ・担当名	社会教育グループ文化振興担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	02 生涯学習関連施設の整備			目	03 社会教育施設費
	施策(小)	02 町民会館のホール機能整備			大事業	01 町民会館等管理運営事業
事業期間	終期未定		平成24年度～			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	町民会館(第1ホール「びほーる」含む。)利用者が、施設を快適に利用できるように維持管理運営するための事業					
事業目的	施設の適正管理を行い、利用者の満足度を高めるとともに利用の拡大を図る。					
事業の対象	町民会館(第1ホール「びほーる」含む。)、町民会館利用者					
実施結果	【実施結果】 適正な維持、保守管理等の実施。適切な舞台操作、ホール環境の提供					
現状と課題	【現状と課題】 新館改築工事による停電作業や重機作業が、びほーる舞台使用に影響が出ないよう日程調整が必要。 また、工事区画の駐車場が使用できないため、駐車場の確保が必要。					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位:千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	65,967	58,654	57,808	53,252	68,840	0
国支出金	0	0	0	-	0	-
道支出金	0	0	0	-	0	-
地方債	0	0	0	-	0	-
その他	3,853	1,265	762	-	3,341	-
一般財源	62,114	57,389	57,046	51,793	65,499	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	65,967	58,654	57,808	53,252	68,840	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	施設の利用率	目標	%			70	80	70
		実績	%		48	75	90.6	
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	町民会館(びほーる)の施設運営のためには必要であり、妥当である。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		高い	町民会館(びほーる)の利用率が目標を達成したため有効である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		高い	ランニングコストは高いが、見合った収益がない。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 町民会館を適正に維持するため、定期的に設備の保守を実施し、利用者が安心して利用できるよう環境整備を図る。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 現状の予算で運営が図られているため。			予算反映額(概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	びほーるは全国的にも高い稼働率を維持しており、今後も安全を確保し、町民の皆様がより使いやすさを感じられるよう、利用者の側に立った施設運営をおこなっていきたい。							

平成29年度 事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		町民会館改築事業		グループ・担当名	社会教育グループ町民会館	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	02 生涯学習関連施設の整備			目	03 社会教育施設費
	施策(小)	03 町民会館改修の推進			大事業	01 町民会館等管理運営事業
事業期間	5年度		平成26年度～平成30年度			
要求区分	継続		マニフェスト	○		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	町民会館改築工事は、平成28年9月21日に契約し平成30年7月12日に完成、外構工事及び備品納品が8月中に完了し、計画通り平成30年9月1日(土)にオープンする。 H26年度…基本設計策定、パブリックコメント実施 H27年度…実施設計策定 H28年度…解体除却工事、建設工事(全体工事の約8.65%)、工事監理 H29年度…建設工事(全体工事の約88.35%)、工事監理 H30年度…建設工事(全体工事の約3%)、外構工事、工事監理、備品購入					
事業目的	耐震性があり、ユニバーサルデザインと省エネ対策に配慮し、機能性と耐震性を兼ね備えた施設とする。					
事業の対象	老朽化し耐震化されていない町民会館(第1ホール「びほーる」を除く)を改築する。					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 関係団体との意見交換会や議会への説明、パブリックコメント手続きを行うなど、町民の意見を取り入れ、改築にむけた基本設計及び実施設計を平成27年度に策定。 【現状と課題】 年度末の工事進捗状況は97%に達し、改築工事は計画通り進んでいる。 財源である社会資本整備総合交付金及び環境省の再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業補助金は、計画					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	26,053	95,812	960,926	960,668	231,554	0
国支出金	3,112	2,010	26,163	-	789	-
道支出金	0	0	0	-	0	-
地方債	17,600	77,100	903,400	-	166,800	-
その他	0	16,018	30,896	-	1,605	-
一般財源	5,341	684	467	960,668	62,360	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	26,053	95,812	960,926	960,668	231,554	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	町民会館改築工事進捗率	目標	%		8.65	97	100	
		実績	%	1	9.27	97		
		達成率	%					
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	一日も早い完成が求められている中、今後も改築事業を推進させる必要があり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	3カ年の2年次で、計画通り工事進捗が図られており有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	改築事業は3カ年の2年次であり、事業を完成させなければこれまでの経費は無駄になってしまう。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 休止・廃止 平成30年度事業完了					評価結果	
	予算	○ 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ● 皆減 平成30年度に事業が完了することから終了する。			予算反映額 (概算)	0千円		休止・廃止
今後の改善点	コスト意識を持ち、大規模施設の運用方法を早く確立して安定的な運用に努める。							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		びほーる整備事業		グループ・担当名	社会教育グループ文化振興担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたためたい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	02 生涯学習の充実			項	04 社会教育費
	施策(中)	02 生涯学習関連施設の整備			目	03 社会教育施設費
	施策(小)	02 町民会館のホール機能整備			大事業	01 町民会館等管理運営事業
事業期間	終期未定		平成28年度～			
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	<p>「びほーる」の活力ある事業運営及び維持管理を継続するための舞台備品等を整備するとともに、利用者の安全を確保するために、舞台機構の年次的更新・改修を行う。</p> <p>○開館日数は年末年始6日間を除く359日間</p> <p>○平成27年度稼働率83.6% (メンテナンス日を除く)</p> <p>○平成24年8月19日～平成28年3月31日までの稼働率78.2%</p>					
事業目的	施設備品の整備及び舞台機構の年次的更新・改修により、安全かつ円滑な施設運営を図る。					
事業の対象	町民会館「びほーる」					
実施結果・現状と課題	<p>【実施結果】</p> <p>出演者や観客の安全対策として、客席天井落下防止措置工事、バトン操作制御プログラム改修工事、音響反射板乗り移りステップ取付工事などを実施した。</p> <p>【現状と課題】</p> <p>舞台を安全に運営するため、今後、保守点検結果に基づく舞台装置の修繕等が必要。</p>					
事業進捗度	1 達成できた	進捗度3又は4の理由	-	左の具体的な内容		

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	12,238	9,692	4,992	0
国支出金	-	-	2,010	-	0	-
道支出金	-	-	0	-	0	-
地方債	-	-	0	-	0	-
その他	-	-	0	-	0	-
一般財源	0	0	10,228	9,692	4,992	0
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	12,238	9,692	4,992	0

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	施設による事故発生件数	目標	件			0	0	0
		実績	件	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町民会館(びほーる)の施設運営のためには必要であり、妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	事故が発生しなかったため有効である。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	必要最低限の修繕で事故が発生していない。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 舞台設備を必要に応じて修繕・改修工事を実施し、利用者が安心して利用できるような環境整備を図る。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 必要最低限の修繕にとどめている。			予算反映額 (概算)	0千円		現状維持
今後の改善点	出演者及び来館者の安全のための環境整備を、引き続き行う。							



平成29年度 事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		芸術文化活動促進事業		グループ・担当名	社会教育グループ文化振興担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	04 芸術、文化の振興			項	04 社会教育費
	施策(中)	01 芸術文化活動の促進			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	01 芸術や文化活動団体の育成、援助			大事業	05 芸術文化振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	文化関係団体・サークルの活動の充実と活発化を図るための支援を継続し、運営及び活動の成果を発表する機会を支援して、単位団体数の拡大や一層の文化振興を図る。また演劇ワークショップや演劇ひろばの表現活動を通じて児童生徒の居場所づくりとして、びほーるを拠点とする文化創造の発進場所にしていきたい。					
事業目的	町民の文化活動の活性化及び芸術文化に親しめる鑑賞作品を提供する。びほーるを子供たちの表現の場所となるよう演劇や歌・ダンスなどの練習・創作場所に活用をする					
事業の対象	一般町民及び文化団体・サークル					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 実行委員会の自主企画により芸術公演を開催して、町民に芸術文化の鑑賞に親しむ機会を提供したが、来場観客数が公演作品によって大きく落ち込んでいる 【現状と課題】 より多くの町民に満足してもらい、期待される鑑賞作品を提供していく					
事業進捗度	3 取り組んでいるが順調でない	進捗度3又は4の理由	その他	左の具体的な内容	実行委員会の自主性が弱いことや企画が不十分のため、結果として多くの町民に還元されていない	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	29,694	29,581	3,421	3,400
国支出金	-	-	0	0	0	0
道支出金	-	-	0	0	0	0
地方債	-	-	0	0	0	0
その他	-	-	3,012	3,012	3,035	0
一般財源	0	0	26,682	26,569	386	3,400
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 (千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	29,694	29,581	3,421	3,400

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	鑑賞事業の平均鑑賞者数(鑑賞者総数/公演数(講習会除く))	目標	人			350	350	400
		実績	人			230		
		達成率	%			65.71		
指標2	支援団体数	目標	人			6	6	6
		実績	人		6	5		
		達成率	%			83.33		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町民が企画実施したい文化芸術を推進する必要な事業であり今後も継続した実施は妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	より一層の来場者確保は必要とするが、周知や開催時期を工夫を重ね開催のために補助金支援は必要であるため有効性はある。					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	鑑賞事業の実施運営には補助金が不可欠であり、今後も支援継続は必要のため効率性は高い。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 芸術文化振興事業は広く町民に鑑賞を親めるよう、費用対効果を見極めた企画・準備を行う必要がある。					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 準備企画をしっかりと持ち、具体的な事業計画による予算を計上していく。						
		予算反映額 (概算)	0千円			改善		
今後の改善点	公演企画をしっかりと詰め、町民が鑑賞作品を楽しみにしたい魅力ある公演やPRに努める							

平成29年度 事務事業評価調査

1. 事業内容

事務事業名		文化団体・サークル交流促進事業		グループ・担当名	社会教育グループ文化振興担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	04 芸術、文化の振興			項	04 社会教育費
	施策(中)	01 芸術文化活動の促進			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	02 サークル・団体の活動成果の発表と交流促進			大事業	05 芸術文化振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	政策的経費
事業概要	文化連盟との連携により文化祭を充実し一般町民との交流拡充を図る。びほーるの活用を効果的・効率的に図りながら文化団体発表機会の充実をさせる					
事業目的	文化関係団体の活動の充実、交流促進を図る					
事業の対象	文化連盟加盟団体					
実施結果	【実施結果】 びほーる活用による芸能文化の発表機会の充実と文化祭開催を実施					
現状と課題	【現状と課題】 ギャラリーコンサートは年間3回の計画に対し2回実績。アートギャラリーは観覧場所の提供にとどまり、来場者が少ない					
事業進捗度	3 取り組んでいるが順調でない	進捗度3又は4の理由	その他	左の具体的な内容	ギャラリーを会場とするため準備企画が直前となり、そのため町民周知も不十分で悪循環。開催の手法も含めて再検討が必要	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	625	513	628	520
国支出金	-	-	0	0	0	0
道支出金	-	-	0	0	0	0
地方債	-	-	0	0	0	0
その他	-	-	18	0	18	0
一般財源	0	0	607	513	610	520
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計(事業費+人件費) (千円)	0	0	625	513	628	520

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	文化祭参加団体	目標	団体			70	70	70
		実績	団体		67	68		
		達成率	%			97.14		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点		評価	理由				
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。		妥当	特に子供たちや親子連れの客層に好評な開催内容であり、びほーるで気軽に楽しんでもらえる事業内容であり妥当である。				
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。		普通	より一層の来場者確保は必要で改善する点は残るが、びほーるに親しみ足を運んでもらう機会提供の手法として有効である。				
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。		検討	開催日程、町民周知に課題があり。当初予算は少ないが、より時間をかけるべき				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 文化祭の開催支援は継続し充実させるが、びほーるでのギャラリーコンサートやアートギャラリー実施は見直しが必要					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 文化祭の支援は維持しつつ、ギャラリーコンサート回数等は実情に合った見直しが必要だが、予算は現状範囲内で対応していく。					予算反映額 (概算)	0千円
今後の改善点	びほーるに気軽に足を運んでもらうミニコンサートやアートギャラリーを新たな方法で実施検討する							

平成29年度 事務事業評価調書

1. 事業内容

事務事業名		芸術鑑賞機会充実整備事業		グループ・担当名	社会教育グループ文化振興担当	
				評価者名	教育部長 田村 圭一	
総合計画	基本目標	05 夢を育む体験! あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10 教育費
	施策(大)	04 芸術、文化の振興			項	04 社会教育費
	施策(中)	01 芸術文化活動の促進			目	02 社会教育振興費
	施策(小)	03 芸術鑑賞事業の内容充実			大事業	05 芸術文化振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		マニフェスト	-		
根拠法令等					経費区分	投資的経費
事業概要	文化関係団体と町が共催する芸術文化鑑賞事業を実行委員で企画・運営を進めて、一流の出演者による芸術公演を開催する					
事業目的	一般町民に生の芸術や演奏に親みながら芸術文化への教養を高めてもらう					
事業の対象	びほーる共催鑑賞事業実行委員会					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 日本フィル弦楽四重奏、NHKラジオ公開録音、あんみつるコンサート、よしもとお笑いまつりの4本を企画開催した 【現状と課題】 事業企画やPRなど準備をしっかりと行い、開催に際して多くの町民が満足ができる内容にする					
事業進捗度	3 取り組んでいるが順調でない	進捗度3又は4の理由	その他	左の具体的な内容	準備計画が不十分なため、鑑賞する来客者数が少ない事業が多くあり、費用対効果が薄い	

2. 年度別事業費

(単位：千円)

	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算	平成29年度決算	平成30年度予算	平成31年度予算
事業費 (千円)	0	0	4,500	4,500	5,240	4,500
国支出金	-	-	0	0	0	0
道支出金	-	-	0	0	0	0
地方債	-	-	0	0	0	0
その他	-	-	2,000	0	2,000	0
一般財源	0	0	2,500	4,500	3,240	4,500
人件費 (千円)	0	0	0	0	0	0
(1人当たり給与費 (千円) (人工)	0	0	0	0	0	0
計 (事業費+人件費) (千円)	0	0	4,500	4,500	5,240	4,500

(見込値)

3. 評価

指標名			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
指標1	芸術鑑賞機会充実事業の平均来客数 (公演観客総数/公演本数)	目標				350	400	400
		実績				300		
		達成率	%			85.71		
指標2	入場者数	目標	人			3,500	3,000	3,000
		実績	人		3,309	2,314		
		達成率	%			66.11		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					
項目	評価の視点	評価	理由					
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町と各実行委員が共催で提供する鑑賞事業で、広く町民に提供できる機会として今後も必要であるため妥当である。					
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	低い	来客数が減少して、多く町民に親しんでもらえる鑑賞ができていない					
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	各公演の来場数では相当数の開きがあり、費用対効果が低い					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 休止・廃止 町民が関心を持ってもらえる公演内容を企画実施すること					評価結果	
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ 皆減 予算総額は維持しながら、質の高い芸術公演を開催するため、公演企画を丁寧に行う。					予算反映額 (概算)	0千円
今後の改善点	民間の実行委員会が自ら企画・運営できるよう指導を行うこと							